

橿原市

第2回大和八木駅周辺地区まちづくりワークショップ
実施結果

実施日時：平成28年11月26日（土）午後1時～午後5時

場 所：大和信用金庫八木支店ビル3F第1会議室

橿原市

平成29年2月

— 目 次 —

1. ワークショップの概要.....	1
2. 第2回ワークショップの出席者とグループ分け	1
2.1. 参加人数.....	1
2.2. グループ分け	1
3. 第2回ワークショップの様子.....	2
4. 第2回ワークショップの意見.....	3

1. ワークショップの概要

大和八木駅周辺地区のまちづくりでは、地域との協働のまちづくりに向けた取り組みのひとつとして、住民参加ワークショップを開催します。ワークショップでは、「大和八木駅周辺地区まちづくりに対する地域住民の関心及び理解を得ること」、及び「地域住民同士、意見交換を行い、出てきた意見を大和八木駅周辺地区まちづくり基本構想及び基本計画に反映すること」を主な目的とします。

また、ワークショップに参加するメンバーは一般公募とし、市のホームページ、広報誌等で広く市民に周知します。幅広い視点から、住民等が主体性をもち活発に意見交換を行える状況を整え、実施するものです。

表 1-1 ワークショップの概要

開催回数	全3回開催します。	
実施時期	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回：平成 28 年7月2日(土)午前9時～午後5時 ・第2回：平成 28 年11月26日(土)午後1時～午後5時 ・第3回：平成 29 年2月18日(土)午後1時～午後5時 	
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年7月2日現在で 18 歳以上の市内在住・在勤・在学の方とします。ただし、市職員、市議会議員は除きます。 	
進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ協議の進行はファシリテーターが担当し、すべての参加者が平等に発言する機会を確保することにつとめ、相反する意見がグループ内であった場合にも、どちらも尊重し、参加者が自由に意見を述べる機会を確保します。 	
実施内容	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・開催趣旨、ワークショップ実施概要について説明を行います。 ・現地のまちあるきで大和八木駅周辺地区の現状を確認します。 ・グループ毎に地区の課題、大和八木駅周辺地区のまちづくりの取組方針について意見交換を行います。 ・グループ毎で協議した内容を発表します。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎で基本計画（素案）について意見交換を行います。 ・グループ毎で協議した内容を発表します。
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎で基本計画（案）について意見交換を行います。 ・グループ毎で協議した内容を発表します。
協議グループ構成	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループ、6～7人で構成します。 	
傍聴について	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての市民の方が聴衆として参加することができます。 	

2. 第2回ワークショップの出席者とグループ分け

2.1. 参加人数

市のホームページに平成 28 年5月27日より公募を行い、6月の広報誌にお知らせを掲載したところ、一般公募は9名でした。地域団体と学校関係者に別途声掛けを行い、参加者を募りました。参加者と当日の出席者の内訳は次のとおりでした。

表 2-1 参加者内訳

区分	参加者	当日の出席者
一般公募	9名	8名
地域団体	9名	7名
学校関係者	7名	1名
計	25名	16名

2.2. グループ分け

当日の出席者の人数から、次のとおりグループ分けを行い、全3グループとしました。

表 2-2 グループ構成

グループ	区分	当日の出席者
グループA	一般公募	4名
	地域団体	2名
	学校関係者	0名
		計6名
グループB	一般公募	2名
	地域団体	3名
	学校関係者	0名
		計5名
グループCD	一般公募	2名
	地域団体	2名
	学校関係者	1名
		計5名

3. 第2回ワークショップの様子

グループ毎に分かれ、第1回ワークショップの結果を踏まえて、基本構想にまとめられた「賑わい創出」「回遊性向上による観光振興」「現庁舎の耐震性能の確保」「交通処理・交通ネットワークの検討」の4つのテーマ毎に、基本計画作成にあたっての具体的なアイデアについて意見をもらいました。



<グループ協議の様子>



<全体の様子>

4. 第2回ワークショップの意見

テーマ毎のワークショップ参加者の意見要旨を、次に示します。

項目	中項目	意見要旨	住民意見	グループ
賑わい創出	整備の方向性・具体策	大和八木駅を通過する駅ではなく、降りて買い物できるなどのメリットを感じてもらえる駅にし、まちに賑わいを創出するには、商店街の活性化が重要だ。	近鉄が制度変更で途中下車ができなくなり、以前に比べて買い物をする人などの賑わいが減った。駅前の賑わいのためにも買物ができるように途中下車できる方法はないか。八木駅を通過する人に、八木駅周辺店舗などを利用してもらい、地域経済を発展させる。	A
			大和八木駅前、南、北商店街に、人を呼べる街づくり。	CD
			大型商店が進出し、商店街の需要が減ったため、まちには本来の賑わいが無い。	CD
			H30年には市の複合施設が出来る予定なので、観光客の食や遊を満たす店舗が不足しているので、県・市などとも連携して出店し易いようにする。	B
			明瞭な街を利用するメリットを出せるのか(下車する、泊まる理由)。大和八木で敢えて降りることのメリットが明確になればよい。	B
		新しくできる分庁舎やホテルと周辺飲食店を含む既存商店街の共存を重視すべきである。	新しくできる分庁舎やホテルと周辺飲食店を含む既存商店街の共存重視案	A
		観光客にとって夜の繁華街は必要だろう。繁華街を充実させれば夜の賑わいが昼の賑わいにつながるのではないか。	まず賑わいが無いとカフェも出店できない。夜の賑わいから昼の賑わいにつながる。観光客にとって夜の繁華街は必要ではないか。	B
		大和八木駅周辺だけに賑わいを創出するのではなく、市全体での賑わいづくりを考える必要があるのではないか。	橿原全体としては、そもそも乗り換え駅である八木駅周辺にこだわる必要があるのか。	B
			駅前に賑わいは必要なのか(賑わい、交通利便は相反するのではないか)。	A
			賑わいは駅前のみで市全体的には無い。商店街が全体的に薄い。	CD
八木西口駅周辺には観光客用の店がなく、駅としての必要性に疑問を感じる。	八木西口駅は不要ではないか。周辺に観光客に対する店もない。	CD		

項目	中項目	意見要旨	住民意見	グループ
賑わい創出	整備の方向性・具体策	高齢者が集まれる場所が少ない。	駅前に高齢者が集まれる場所を作らなければならない。たとえば、朝、100円でコーヒーを飲めるマクドナルドがあれば利用する等のケースになってくる。	A
		若者が集まったり、勉強ができる場が少ない。若者が訪れるまちにするには、若い人にとって魅力のある店舗や場所をつくる必要がある。	居酒屋さんばかりで、若者が入れる場所が少ない。文具店、書店・古書店等。若者が入れるジュンク堂とか TSUTAYA とかをナビプラザとかで誘致すれば、不便な場所でもそちらにこられるのでは。今のままでは、ナビプラザの利用価値が無いので駅近を利用できる形にすることが望ましい。	A
			地区内に畝傍高校があるので、学生がうろうろできるような本屋さんや勉強できる場所があると良い。駅の待合の合間に勉強コーナーがあって集えるという形などはどうか。	A
		様々な世代の人が気軽に集まれる場所がないので、まちなかにできると良い。	世代を超え、皆が集える場所が少ないので、大阪の自治体でやっているのだけれど、古本を1冊持参すればコーヒーを一杯飲めるようなシステムを作る方法等を検討し、集える場所をつくる必要がある。	A
		ふらりと訪れることができるカフェが少ない。オープンテラスのあるカフェなどができると、まち歩き途中などにも立ち寄り、まちの雰囲気づくりにもつながる。	お昼の街歩きの方、カフェ、入りやすいところが少ない。おふさ観音の帰りなど。	B
			八木駅南側にカフェ(女性が気軽にお茶できる店)が少ない。オープンテラスなどができると良くなるのではないか。	B
		八木駅南側の未利用空地(歩行者用の広場)が活用されておらず、駅前の一等地なのにもったいないため、活用できると良い。	八木駅南口に工事用のバリケードがあるが、駅前の一等地なのにもったいないので、歩行者用の広場にするなど、未利用空地の活用をすべきである。	A
		大和八木駅前は一等地にも関わらず生かされていない。北側の広場、公園を活用し、駅前にシンボルとなり、人が溜まり子供たちが遊んだりもできる広場をつくることができると良い。	八木駅北側の公園を活用する。大和八木駅北側の噴水のある駅前広場のスペースを活用し、子供たちの遊び場にできないのか。	CD
			大和八木駅前には広場が少ない。駅北側開発には大きな広場がよいのではないか。大和八木駅北側を開発し、子どもが遊べる広場をつくる。	CD
			北側に切迫感のある立体駐車場の必要性があるのか。駅北の立体駐車場を取り払い、市民・観光客がつどい、ただよえるような広く青空の見える駅前広場(公園)をつくり、百貨店・文化会館から、南の新庁舎への動線をつくる。八木駅には、駅裏はなく、南北どちらも表となりうる。	B
	駅前にシンボルが薄い(インパクトの提供)。	B		

項目	中項目	意見要旨	住民意見	グループ°
賑わい創出	整備の方向性・具体策	駅周辺地区への主要なアクセスを車と考えるか、電車と考えるかによって駅前広場のつくり方が変わると思うので、広場のあり方はまずそこから考えることが重要だ。	「駅前に来るのは車の利用者なのか、電車の利用者なのか、どういうアクセスでこのまちに来てもらうのか」によって、駅前広場の作り方も変わるのではないかと。掘り下げて調査してみることも必要かもしれない。	A
		樫原市単独の観光拠点になるのではなく、広域的な視点からの立地と交通利便性を生かし、飛鳥、吉野観光の窓口としての日帰り観光拠点を目指してはどうか。	観光の拠点として、樫原単独では難しいので、「樫原、飛鳥地区」の窓口としての立地を生かす。関空からの視点で見ると、樫原から和歌山までのハブ的な核として観光拠点となりうる。京都や奈良のように1日をかけて観光する場所ではなく、飛鳥・吉野の窓口とするのが現実的。交通上便利なことが強み。日帰り観光の拠点とすべき。	B
		現状では観光ポイントがバラバラなので、大和八木駅～今井町～畝傍駅～八木町をつないで一体的な観光エリアを形成する必要がある。通りの名称付けやわかりやすい案内板の設置などで体系づけられると良い。	近鉄八木駅前から南側商店を通過して今井町まで一体化した街づくり(名称・呼称で印象付ける。〇〇通り等)。今井町の駐車場の情報などをもっと発信すべき。観光資源を使って、今井、八木をつなぐべき。例えば、畝傍駅の貴賓館など。決まった名称・呼称があると、多くの人に通ってもらいやすくなるのではないかと。通ることで食事などの飲食店利用も増える。	A
			観光資源を活用するためのフォーマットを作れるのか(バラバラな現状から進めるのか)。観光地として体系立てて整備していくことができるのか。	B
			畝傍駅から南に抜ける出口がなく、高齢者や街歩きをしている人にとってわかりにくい。案内板など利便性を上げる。「長寿道」と名付けられているので、クローズアップするのも良いのでは。	B
		樫原市には、埋蔵文化財はあるが、あくまで考古学の観点で保護すべきものであり、観光資源として活用してもあまり効果は期待できないのではないかと。埋蔵文化財による観光だけではなく、歴史・文化の教育を図ることなど、多様な視点で検討すると良い。	樫原の埋蔵文化財は観光資源なのか。埋蔵文化財は考古学であり、埋蔵文化財では食べていけない。今のままの樫原では駄目である。	CD
			歴史はあるが文化がない。	CD

項目	中項目	意見要旨	住民意見	グループ
賑わい創出	情報提供・ソフト施策	大和八木駅を中心としたエリアでイベントを開催し集客を図る。新たなイベントを企画するだけでなく、イルミネーションの期間延長など現状のイベントをより活性化させることも検討すべきだ。集客に向けた情報提供の充実や一過性のものにならない様な工夫も必要だ。	イルミネーションの点灯期間を長く設ける。(商店街に依存度が高いが) イルミネーションの点灯が12月～1月のみ。長く実施することで、より集客効果が見込める。現状、商店街への依存度が高い。市単独も含め、市の関与する度合いを高めるべき。	A
			八木駅を中心としたフェア・イベントを開催する。ただ、一時的な祭りでは継続性がないので難しい。駅～ナビプラザ～百貨店～文化会館～新庁舎を関連付けたもの。	B
			イベント専用の掲示板をつくる。市主催のイベントや、今井ジャズなど、開催情報の周知が足りないので集客ができていない。ここを見ればわかるといった統一された情報ツールをつくることでわかりやすい情報提供を行い、インターネット、スマートフォンなどで簡単に見られるとよいと思う。	CD
			駅前商店街や駅前広場を歩行者天国として開放する。大和八木駅北側で実施したラーメン博は、あまり宣伝していないのに賑わった。土地としてのポテンシャルは高いと思う。継続していけば盛り上がるはず。	CD
	良い観光ポイントや店舗があっても情報発信ができていないので、観光客に魅力が伝わっていない。インターネットやスマートフォンなどを活用した統一された情報ツールをつくることに加え、メディアに積極的に情報発信して取り上げてもらう様にする事も重要だ。	橿原は最新の奈良県観光本でも2頁しか取り扱われていない。特集で食べる場所の説明が少ない。奈良市内と比べても負けない飲食店があるのに発信できていない。自慢できるものの発見が少ない。	B	
		酒場を紹介するTV番組などもあった。橿原からメディアへの積極的な発信が必要である。	B	
		観光客が泊まってもらえるほどの魅力を取得・発信していないことに問題がある。観光課の人が勉強して発信することも必要ではないか。	B	
	市の歴史や市内にある観光ポイントのことを市民でさえ知らないのが現状だ。まず市の職員も含めた市民に魅力を伝えることが重要でないか。それが地元に対する愛着を生むことにもつながる。	観光地の情報発信が不足している。まずは市民にも知ってもらう工夫をすべき。	A	
		市の職員も含めて、市民が市の歴史・魅力を識る。まだ把握されていない観光にも通じる。天皇陛下が来られたルート(線路・水洗トイレ)などの案内。市の歴史的魅力が知られていない。	B	
		小綱町、今井町などはPR※1が必要。例えば、小綱町の自治会長が歴史講演会を行ったが、市民にも知られていない。歴史に興味がある人(古墳女子など)やすも(相撲)女であれば、市民でなくとも参加する可能性がある。	B	
		人口増加のためには、文化財の活用だけではなく、文化都市として子供たちに歴史、文化を伝えていくことも重要である。	CD	

項目	中項目	意見要旨	住民意見	グループ°
賑わい創出	情報提供・ソフト施策	このエリアの観光の玄関になるには、買い物や情報提供、利便性の向上などの面で、海外からの観光客に対応した環境づくりが必要だ。	国際化の話が出ていない。観光の玄関となるなら、他のコンテンツエリアでできないところに特化してもよい。誘客、国際化。外国人が荷物を預け、気軽に買い物できるところはない、今井町の外国人交流会館以外に見当たらない。	B
			櫃原神宮などのコンテンツが提供できていない。外国人が観光しやすい環境作りが必要。	B
			外国人観光客等への援助が必要(観光のハブとして機能するために必要)。外国語での対応や物を買うところを増やす等。	B
	居住環境	観光地として賑わいの創出だけでなく、治安の維持も大切だ。犯罪防止のために防犯カメラを増設することも検討すべきではないか。賑わいあるまちと住みよいまちとの共存を目指したい。	他の観光地のように清濁併せ呑めるのか(住みよい町と賑わいある町の共存)。例えば沖縄観光では、賑わいがあるエリア、閑散としているが独自の特徴があるエリアに分かれている。観光地として賑わいの創出だけでなく、治安の維持が両立できるか。住み分けが必要。	B
			犯罪抑止のため防犯カメラの増設。防犯カメラが増えると犯罪が減るデータあり。もっと増やすべき。	A
		賑わいをつくり、まちに活力を与えるには人口を増加させることが重要だ。市に何が足りないかを把握した上で買いものや子育てのための環境を整え、働く場をつくる必要がある。	賑わいとは、具体的には仕事を創り人口を増やすことである。	CD
			空室 1300 戸あり、かつ、マンションが建っても人が入らないため、櫃原市に何が足りないのかを把握すべき。商店街の規模が小さくなり、買い物客は郊外に行ってしまう。	CD
			子供たちの遊び場をつくる。人口を増やすことが市の力につながる。人口増加のためには、文化財の活用だけではなく、文化都市として子供たちに歴史、文化を伝えていくことも重要である。	CD
			奈良交通と観光協会と連携する。	CD
	推進体制	商工会議所や商店街が単独で実施しているイベントに対する市の関与を強めるなど、行政、民間企業、商店会、観光協会などが連携して賑わいづくりに取り組むことが大切だ。	イルミネーションの宣伝ができていないのか。イルミネーションは市が主催ではなく、商工会議所が主体となり実施していることから、今後も商工会議所と市が連携して宣伝していく。	B
			イルミネーションの点灯期間を長く設ける。現状、商店街への依存度が高い。市単独も含め、市の関与する度合いを高めるべき。	A
			H30年には市の複合施設が出来るが、県・市などとも連携して出店し易いようにする。	B

項目	中項目	意見要旨	住民意見	グループ
回遊性向上による観光振興	整備の方向性・具体策	現状のナビプラザは駅から距離があるので、もっと駅に近い場所に案内所を設置してはどうか。駅前の交番を昼間は観光案内所の分室とすることも考えられる。	駅に近い観光案内所を設置。市内、中南和の情報発信(交通・道路・道の駅等)。南和の玄関口としての機能が活かされていない。今の観光案内所・ナビプラザは遠い。	A
			昼間、駅前の交番は空いている。昼間は観光案内所・発信所として活用してはどうか。観光案内所・ナビプラザの分室として。	A
		ナビプラザを観光情報案内や地元産品 PR※1の場などとしてもっと生かすべきだ。情報拠点としての中身の充実と共に、外観や誘導方法の工夫、LED ビジョンの活用によって視認性を高める必要がある。	ナビプラザの LED ビジョンから音を出す。当初、八木駅 4 番ホームと高さが同じということで八木駅の案内アナウンスが聞きにくいということが音を出さない理由だったが、スピーカーを高さ2mぐらいまで下げれば良い。LED ビジョンの有効活用で賑わいを創出できる。	B
			LED ビジョンは、台風など災害時の情報発信にも使えるのではないか。	B
			せんとかくんはナビプラザの中に入れずに外に出してほしい。	B
			ナビプラザをもっと有効に活用させることが、1 番速い取組。あのビルが何のビルか遠くからでもわかるように商業ビルがやっているように大きな文字を使って、ウェルカム感を出す。駅から誘導するものがない。観光拠点としての PR※1、視認性が必要。	B
			ナビプラザのお土産物店は便利、より活用すべき。	B
			ナビプラザを中南和の中心、情報拠点として活用する。ナビプラザにはパンフレットだけで、観光振興のシステムがない。	CD
			ナビプラザのレンタサイクルはもともと赤字なのだから、もっと安くしてわかりやすく、見やすいように考えなければならない。ナビプラザ自体が、近隣民間企業の建物に見えてしまう。	B
			ナビプラザの中身がなっていない。駅から離れているのでわざわざ足を運ぶ価値があるのか。	CD
ナビプラザでアピールする。	B			

項目	中項目	意見要旨	住民意見	グループ°
回遊性向上による観光振興	整備の方向性・具体策	大和八木駅からナビプラザや新しいホテルなどの観光案内施設・観光拠点へ観光客をスムーズに誘導できる動線を確保するため、看板や路面サインなどを設置できると良い。	観光振興のため、八木駅から八木西口駅迄の歩行者誘導看板を整備する。	A
			八木駅を除いてアクセスがわかりにくい(・ナビプラザ・西口)。案内板やサインの整備。	A
			大和八木駅改札からナビプラザへの誘導を地面に書く(描く)。ナビプラザの場所も分かりにくい。看板よりも、地面に色付きの矢印等を書く(描く)方が分かりやすい。	CD
			ナビプラザの有効活用。近鉄八木駅からどう導くか。案内板など表示。	A
			近鉄八木駅からの新庁舎(ホテル)までの導線確保。	A
			初めて来た方に、ナビプラザへ向うように誘導する。	B
	整備の方向性・具体策	八木町、今井町、畝傍駅をめぐるルートや下ッ道通りの観光ルート、橿原神宮から近鉄八木駅までのジョギングルートなどを設定することで、埋もれている観光資源が発掘でき、積極的にアピールするきっかけにもなる。	八木町、今井町、畝傍駅の見学ルートの設定。埋もれている観光資源が多い。今井、八木の観光ルートに組み込んでアピールし、活用すべき。	A
			八木町と今井町のルートを明確にするため、パンフレット等の作成・活用。	A
			下ッ道通りの観光ルートづくり。札の辻は近畿の風景街道の登録第1号であるが、橿原市として有効活用、アピールできていない。	CD
			橿原神宮から近鉄八木駅までジョギングルートを作る。	A
	整備の方向性・具体策	大和八木駅周辺のみだけで観光を考えるのではなく、おふさ観音や久米寺などの市内各地のスポットや明日香、宇陀などまでも含めた広い範囲で、「周遊する観光」「点ではなく面で考えた観光」を検討するのが良い。	八木の中心ではなく、各地、おふさ観音、今井、小綱町で催し物・講座を展開する。駅を中心でなくても、おふさ観音などは、夏の風鈴や、バラまつりがある。あじさいが綺麗な久米寺なども周遊できる。	B
			橿原市に観光資源があるという認識は本当にそうか。地下に埋まっているものは文化ではなく考古学では。観光客は明日香村にはくるが、橿原市には来ない。橿原市の観光は点ではなく、明日香や宇陀等、面に対応すべきだ。奈良市どまりで終わってしまう。	CD

項目	中項目	意見要旨	住民意見	グループ
回遊性向上による観光振興	整備の方向性・具体策	観光地へのアクセスの選択肢を増やすという意味で、レンタサイクルは有効だと思う。飛鳥川自転車道が整備できると良い。	飛鳥川自転車道の整備。	B
			レンタサイクルは良い。必要。例えば首里城へのアクセスは選択肢が多い。レンタサイクルやタクシー等。価格が異なることがいい。八木駅のレンタサイクルは藤原京に行く人のためのもの。目的に応じた利用ができることが必要で、レンタサイクルは良い選択肢。	B
		車と徒歩での周遊を充実させるべきだと思う。観光スポット間の距離を考えるとレンタサイクルにさほど需要があるとは思えない。	レンタサイクルは不要。歩くことと、車での周遊を充実させるべき。レンタサイクルの需要があるのか。橿原は歩いて見てもらうところ。今井までは歩ける。飛鳥であればレンタサイクルに乗るが、車に乗って行くほうが現実的。藤原京や昆虫館など車で回るほうがよい。	B
		観光客を誘致しイベントの集客を図るためには、駐車場があることが重要だ。今井町などでは自家用車だけでなく、観光バス用の駐車場整備も必要になる。	観光振興のため、今井町を訪れる観光バスの駐車場整備として、小綱池を駐車場にして、今井観光へつなげる。	A
			イベントに来てもらう人が周遊しやすいようにしなければならない。車利用者には駐車場の整備。バスでも周遊できるようなコースを案内するなど。	B
			中心部でイベントを行うのであれば駐車場は必要。初めて来られた方が駅前にあふれたことがあり、周辺道路は大混雑となった。	B
		八木西口駅前周辺を今井町の玄関口としてふさわしい雰囲気を持った場所に整備できると良い。	八木駅西側を整備して、今井町の玄関に。小綱池をつぶす。	A
			八木西口駅前に広場整備が必要。歴史のまち今井町看板の整備も。	A
			大成中学校横の小綱池整備。	A
		八木町などに景観デザインコード※2を策定する、通り抜けの自動車対策をするなどにより、まちの景観整備を進める必要がある。	景観の整備。	A
			八木駅南側は淋しいイメージ。サインが少なく、景観が良くない。	A
			八木町は景観デザインコード※2(協定、地方計画)を策定していくべき。	A
			通り抜け自動車対策。	B
		まちなかの空き家を宿泊施設へ転用することを促進してはどうか。	街中の空き家を宿泊施設へ転用することの促進。空き家対策として、個人ではあるが、空き家をゲストハウスとして活用している事例がある。	CD

項目	中項目	意見要旨	住民意見	グループ
回遊性向上による観光振興	情報提供・ソフト施策	観光資源の情報発信が不十分なのに加え、バラバラに発信されているために欲しい情報が得にくい。統一された観光マップなど、「橿原を観光するにはこれさえあれば充分」というものがあると良い。	統一された観光MAPをつくる。観光案内がありすぎてわからない。「橿原を回るにはこれ」という一つが欲しい。まとめるのが難しければ表紙だけでも統一すべき。	CD
			市の観光部門では統一された情報ツール発信方法が少ない。	CD
			南和の情報発信を強化してもよいのではないかと。奈良(中南和)マップを上手く活用する。	A
			天女が降りた久米寺も、宣伝不足。	B
	情報提供・ソフト施策	伝えたいターゲットを明確にした上で、それぞれに対して効果的な媒体や方法を考えた戦略的な情報発信策を立てる必要がある。全体をマネジメントできる人材も大切だ。	コンテンツ発信についての具体案(伝える施策)がない。コンテンツの発信の追及が必要。例えば橿原市のホームページに「かしはら探訪ナビ」がある。橿原神宮のことや各種アクティビティ(旅先での遊び・活動)のこと。残念ながら情報はあのに限定的で認知されていない。一般層、自らの顧客層、ファン層、それぞれのターゲットに対して、発信の方法や媒体を変え戦略的に情報発信すべき。そのためのメイン事業が必要。市は持っているはず。	B
			観光振興についてのスタンスを明確にすべき。コンテンツを発信するのか、コンテンツ発信を助けるのか。コンテンツの発信がふわっとしている。コンテンツをマネジメントする者がいないのではないかと。	B
			遠方からの人に対しては八木が拠点となりうる。市としてアピールしてもらおう。アピールが下手。いろんな意味でのアピールが大事。	B
	情報提供・ソフト施策	マニアだけが来る場所では来訪者数が増えないので、幅広い層にとって魅力ある観光地にする必要がある。そのためにはハード面の整備に頼るのではなく、イベントなどのソフトでの魅力づくりが重要だ。早朝にイベントをすれば宿泊の動機付けにもなる。	今井町、藤原宮跡等に魅力が少ない。マニア中心では来客数は伸びない。いわゆる残念な観光地になっていないか。人が半日すごせる全体としての催し物があるといい。	B
			橿原市は昆虫館というハードを有する。最近では伊丹の方が有名。老舗は橿原。ハードよりソフトで持ち駒を活かす。	B
			早朝からのイベントを開催する。早朝のイベント(朝座禅、朝茶事とか)があれば前泊してもらえる。	B
			藤原京に観光客、人を呼べるようにしたら良い。藤原京で人を呼べるようにしてはどうか。ちゃんと活用されるようになったらよい。	CD
			今は、藤原京は原っぱだが、あえて箱モノつくらなくてもよい。歴史を理解してもらおうことが大事。	CD

項目	中項目	意見要旨	住民意見	グループ°
回遊性向上による観光振興	推進体制	観光振興には住民の協力が不可欠ではないか。住民の理解を深め、協力を得られる様な意識改革をするためには、子供から大人までが市の歴史や観光資源について知ることが大切だ。市民への教育やPRと共に住民生活が脅かされないような市のサポートが必要だと思う。	檀原は日本国の始まりなのか。藤原京跡は観光資源になりえるのか。日本国はじまりの地であることを知らなかった。檀原市民でも知らない。小学校などでも教えるべきではないか。市外へのPR※1も大事だが、市民への周知も大切である。	CD
			まずは檀原市民が檀原観光資源に気づき、認識することが必要ではないか。観光振興を謳っているが、地域の観光資源が市民にも周知されていない。市民の意識から変えていく。	A
			檀原の観光資源である歴史的ロマンを市民に理解してもらおう。例えば「聖徳太子」の成果について。旧来の学説と異なる説が近年有力となるなど、歴史的な魅力のある資源が檀原に有ることを市民に気付いてもらう。	A
			教育で市の歴史を伝えるべき。まちぐるみで教育と観光を促進する。	CD
			観光客の大半は檀原神宮への初詣客が現状である。寺社仏閣などではなく、宿泊、飲食等の観光振興には、住民の協力が不可欠である。	CD
			観光において住民との協力体制は必要である。しかし、住民が犠牲になる可能性も高い。何かを成し遂げるには市のサポートが必要となる。	CD
			行政内部が縦割りだったり、行政と鉄道会社との連携が取れていないために、まちづくりに向けた一体的な整備や総合的なイベントが実現しづらいのが問題だ。	近鉄と市がお互いに街を良くするというベクトルに向けて頂く。関東における鉄道会社と市の連携を見習ってほしい。檀原は駅周辺の動線の整備など住みやすさがまだ足りない。
	それぞれの団体がバラバラのコンセプトでイベントを開催しているために、内輪の盛り上がりになってしまっている。檀原全体で統一された大きなコンセプトに基づいてイベント展開ができれば良い。	奈良県の組織は縦割り組織でそれぞれ行っている。同じ様な行事をやっている。	CD	
		イベントが内輪の盛り上がりになっているのでは。誰のためのイベントなのか。バラバラの団体がバラバラのコンセプトで行っており、統一感がない。檀原全体で統一された大きなコンセプトがあればよい。	CD	

項目	中項目	意見要旨	住民意見	グループ
回遊性向上による 観光振興	推進体制	建造物など人を呼び込める資源をもっと積極的に重要文化財等に登録し、活用、広報していく体制を市内部で整えるべきだ。	河合家住宅を登録有形文化財に登録するにあたり、NPO※3が精力的に動き実現した。市内にある資源を市主導のPR※1や活用ができていないというのは市の組織上の欠陥である。	CD
			市の文化財課は埋蔵物中心に発掘、登録している。建造物など人を呼び込める資源に対し、重要文化財等への登録対応が薄いのではないか。史跡や名勝ではなく重要文化財を市の文化財課から切り離し、独立した部署にしてはどうか。	CD
		まちづくりに市民の意見が反映されにくい。景観保存や道路計画などの分野でもっと市民の意見を聞いて、計画に反映してほしい。	まちづくりに市民の意見が反映されにくい。景観保存、道路計画など。	A
現庁舎の耐震性能の確保	整備の方向性・具体策	市役所庁舎が1つの街区に集約されれば効率化が図られるので、建て替えの場合は市役所建物を現街区にまとめ、防災拠点になる様に整備されると良い。新たな複合施設と法務局及び市役所北館をつなぐことも考えてはどうか。	庁舎を一街区にまとめるべき。分室と一体化が必要。	A
			建て替えの場合は、市役所建物を現街区にまとめる方向で整備。	A
			PFI※4用地と法務局市役所北館をつなぐ。	A
			現庁舎の集約が必要。防災拠点として、1つにした方が効率が良い(利用者コスト)。	B
			現庁舎は、新分庁舎の完成後、防災拠点として建替える。市行政機関を集約して効率を向上し、人員を見直す。	B
			市役所はバラバラにせず総合庁舎にし、行政を集約化し、効率化を図る。	CD
		現庁舎は古いので耐震性に問題があると思う。いつ来るかわからない災害のことを考えると、災害対策拠点ともなる安全な本庁舎を早く実現させてほしい。	現庁舎は古く、耐震性がない。危険で、市民、職員が多数。建替、移転。耐震性について、リードタイム※5が長いことは心配。	B
	震度6以上のとき、今は万葉ホールが災害対策拠点だが、本来は集約した拠点として本庁舎としてあるべき。	B		

項目	中項目	意見要旨	住民意見	グループ
現庁舎の耐震性能の確保	整備の方向性・具体策	現庁舎は利便性が高いので、その利便性の良さを確保し続けられる様にしてほしい。現庁舎は存続すべきではないのか。	現庁舎、分庁舎の計画もない、現庁舎存続。利便性がある。	A
			現庁舎の存続は必要。併せて南側の民有地との合併整備。	A
		新しい庁舎にはオープンスペースを作るなどして、明るく、景観に配慮した建物にしてほしい。	新庁舎はオープンスペースをつくってほしい。景観に配慮し、広いフロアで間仕切らずに明るいオープンスペースのある庁舎にすべき。	CD
		市庁舎を郊外に移転させて建て替えた方が、交通渋滞解消やヘリコプター利用などの災害時の対応面では良いのではないのか。ただし、市の職員が減ることによる中心市街地への影響は懸念される。	現在の交通状況から考えると、郊外移転が望ましいのではないのか。郊外に建て替えたほうが、交通渋滞の面で有利では。	A
			本庁舎を郊外移転すると、職員が減少するので中心市街地の賑わいは低下する。	A
			駅前の分庁舎ができるのであれば市のコミュニティも確保できることから、本庁舎は郊外にあっても、ある程度の対応ができるのではないのか。本庁舎を郊外にすることで、渋滞も緩和できるし、駐車場の確保も可能になる。	A
			郊外に建て替えたほうが、災害対応の面で有利では。現状、医療面ではドクターヘリ等の利用ができていない。災害時のヘリ利用からしても、ヘリポート整備を考慮しても郊外が良いのでは。	A
			市役所はバラバラにせず総合庁舎にし、現在と別の敷地に建てるべき。	CD
			現庁舎や新分庁舎のような駅前の一等地は行政の施設に使うのではなく、もっと有効活用できるものを作る方がまちの発展につながるのではないのか。	庁舎は移転することが決まっているのか。市庁舎の場所が発展によくない。現庁舎や新分庁舎のような一等地はもっと有効活用すべきだ。

項目	中項目	意見要旨	住民意見	グループ	
現庁舎の耐震性能の確保	検討の進め方	市庁舎の計画に関する情報が市民に伝わってきていない。整備の考え方や建て替え案と耐震補強案の比較評価など、費用対効果についてしっかり比較した上で方向性を決めてほしい。	市現庁舎について移転・補強と、採れる方法がどういったものがあるのか、ある程度の情報が欲しい。	A	
			現庁舎の整備の考え方が分からない。市民にもっと発信すべき。窓口を一元化し、建て替えと耐震補強のコスト比較、各計画についてメリット・デメリット比較などの情報を出してほしい。	A	
			市で検討している事項。取り組もうとしていることの情報提供と、その提供方法の仕組みが必要。広報をラジオでやるなど、セクションを縦割りにせず、横串にすべき。	CD	
			建て替えと耐震補強のコスト比較、各計画についてメリット・デメリット比較などの情報を出してほしい。	A	
			コスト比較が必要。	A	
			建て替えと耐震補強による計画の満足度と費用の客観的な比較。	A	
			耐震補強より、建て替えが低コストのはず。	A	
		30年先を見据えた長期的視点と奈良県全体という広い視野から、ファシリティーマネジメント※6を検討すべきだ。	これからの橿原市を考えたとき、奈良県全体でファシリティーマネジメント※6が鍵となる。バラバラな体制ではなく、横串をいれて、再スタートを切るべき。30年先を目指したまちづくりをすべき。	CD	
		現庁舎に関する話はその他のテーマに比べてレベル感が異なるのではないか。	このテーマだけレベル感が異なり、ひとつだけ浮いている(別テーマかと思われる)。	B	
交通処理 交通ネットワークの検討	整備の方向性・具体策	今後新分庁舎とホテルができたり、大和八木駅南側にミニロータリーができると、中心部の交通状況が変わることも予想される。観光中心のまちか住民にとって住みやすいまちかという将来的なまち全体の方向性を考えた上で計画を進めない、どっちつかずのまちになってしまう。	橿原市の立ち位置(観光か住民生活か)を確立すること。賑わいの部分と重複するが、新庁舎とホテルができるからと駅前を様々に発展させると、結果として、どちらつかずになる。	A	
			国道24号線、またそれ以外も混雑する。何が正しいというのはないが、平成30年に新施設(庁舎・ホテル)ができると交通の流れがわかってくるので、全体的に考える。	B	
			現在の街中の店づくり、まちが進む方向の計画をすべきだ。大和八木駅南側にはミニロータリーができると、渋滞が予想される。	CD	
			生活道路は住民生活を重視した安全性の高い道路、商業地の道路は集客を重視した交通量がさばける道路という様に、道路の目的を明確にして整備を進めてほしい。	道路の使い方によりコンセプトを明確にする。生活道路は人を中心に。商業地は集客を中心に。	B
				アクセス道路、国道は車線の確保と安全な歩道を。道路それぞれについて、何の利便性を向上させるための道路かを考えていく。それぞれ道路に性格付けをしていき、使い分ける。	B

項目	中項目	意見要旨	住民意見	グループ
交通処理 交通ネットワークの検討	整備の方向性・ 具体策	渋滞は市の発展のために解決すべき大きな課題だ。官民で連携して問題点の洗い出しや分析、解決策の検討を行う必要がある。	渋滞は最大の問題であるが、官民で連携しじっくり議論し、重要課題として対処すべし。国道24号が混んでおり、観光で時間が読めない。混んでいるのはなぜか。どこが問題となっているかを洗い出して分析すべき。	CD
			混雑解消には、バスを使うなど、自動車の全体量を減らしてはどうか。交通渋滞は市の発展を阻害している。もう少し、官と民が連携したほうがいい。	CD
		交通渋滞を緩和するためには公共施設を移転させることも含めて検討する必要があり、橿原市のまちづくりについて幅広い視点で考え、新たな未来都市を構想すべきだ。	交通渋滞を緩和するためには公共施設を移転させることも含めて検討する必要があり、橿原市のまちづくりを広い視点で考え、新たな未来都市を構想すべきだ。	CD
		高齢化が進むことを考えるとコミュニティバス、乗り合いタクシーなどの公共交通機関の充実が必要だ。他都市の事例を参考にしつつ、混雑するまちなかを避けたルート設定、周辺市町村との連携による運営などを検討できると良い。	コミュニティバスを、国道24号を巡回させ、混雑する町中を通らない巡回ルートとすれば、渋滞が無くなるのではないかな。 高齢化に伴い、コミュニティバスを充実すべき。市単独の運用ではなく周辺市町村と連携し、「広域飛鳥共通1日利用券」として活用すれば、地域住民も観光客も使用できるものになるのでは。他都市の事例、富山市など。 コミュニティバス以外にも、乗り合いタクシーなどの公共交通機関を充実することで、全体として待ち時間の短縮にもつながる。	A A A
		八木駅北の道路事情を改善するため、コンクリートの公園はフラットにして広げる。	八木駅北の道路事情を改善するため、コンクリートの公園はフラットにして、広げる。	B
		八木駅北側広場と北側区画整理地とを南北道でつなげることで、国道24号の交通量の緩和につながるのではないかな。	フクダ不動産のビルと鉄道の間を道をつける。南北道路往復道をつける。南北をつなぐ道路が必要。Uターンできることから交通量の緩和につながる。 八木駅北側。北へ抜ける車道の整備。	B A
			八木駅北側の交通ルートの計画により、国道24号の通り抜けのスピードアップを図る。大和八木駅北側の線路沿い、今の計画ルートにこだわらず、柔軟に計画すべきだ。	CD

項目	中項目	意見要旨	住民意見	グループ
交通処理 交通ネットワークの検討	整備の方向性・具体策	大和八木駅の駅北駐車場は駅から離れた場所に住む人にとっては通勤通学時の利便性が高く、必要なものだ。収益も出ているし、耐震性もあり、まだ築30数年しかたっていないのだからそのまま使い続けるべきだと思う。	八木駅北駐車場は、利便性が有り、年間収益が他の市営駐車場と比べて、実益6000万円以上有る。耐震建築でまだ30数年しか建っていないので、壊さずに、使用する。使用している人が、車、バイク、自転車とも多数有り。通勤、通学に必要。駅から離れている居住者には特に必要。駅に近いから値打ちがある。	B
		大和八木駅北側の駐車場は駅北の計画を進める上での阻害要因となっていると思うので、取り壊した方がよい。	八木駅北側の駐車場は市の既決定の通り、大至急取り壊しを実施。北側計画の阻害である。	A
		駐車場が足りないとイベント時には周辺地域に迷惑が及ぶので、対策を検討すべきだ。	イベントをしても、駐車場がなければ、他の周辺地域が迷惑する。	B
		大和八木駅西口、畝傍駅南口など、利便性や観光客にとってのわかりやすさを考えた駅の出入口の新設を検討してはどうか。	畝傍駅の南側に出入口をつくる。便利になり、観光客にもわかりやすい。良く道を聞かれた。	B
			八木駅西口を新設。京都方面に行くときには西側に改札があると良い。	A
		駅利用者や駅前のバス乗降客などとの交通整理をした上で、新たなモビリティ“michimo”※7を駅に導入し、それで周辺を回遊してもらえると良い。	“michimo”※7を近鉄八木駅に置く(回遊してもらおう)。その場合、“michimo”※7利用者と、駅前のバス乗降客との交通整理は必要になる。	A
		八木駅南側は、3～5年スパンで道路事情を	商店街通りは、現在南行の一方通行だが、未だに毎日北行に逆行して入って来る車が絶えない。	B

項目	中項目	意見要旨	住民意見	グループ
交通処理 交通ネットワークの検討	整備の方向性・ 具体策	見直すことで、渋滞緩和につながるのではないかと。	駅前渋滞を根本的に見直す必要があるのでは。例えば、駅南側ロータリーの東端のローソン付近は、以前通れたところを左折専用レーンにするなど、一番混みにくい方法を考える。夕方になると、一方が混雑すると双方が混雑する現状。曲がり角でも車が待っている。こまめに整備していく。それでも成功とは限らない。3～5年スパンで見直していく必要がある。	B
		畝傍駅の北は道路混雑がひどいので、T字路の渋滞対策が必要だ。	畝傍駅の北、道路混雑がひどい。改善の必要がある。T字路の渋滞対策が必要。	B
		大和信用金庫前の信号や市庁舎の東西の交通信号を改善することで渋滞の解消につなげたい。	大和信用金庫前の信号を改善する。	B
			市庁舎の東西の交通信号の改善。	B
		国道165号や樫原郵便局南の交差点付近の道幅が狭く不便を感じているので、拡幅を急いでほしい。	樫原郵便局南の交差点は、道幅が狭い。郵便局を右折する箇所の道幅が狭い。拡幅する計画はある。用地買収も進行中。	B
			国道165号の道幅が狭く、歩行者、自転車、車の往来も電柱も有り、たいへん不便。拡幅を急いでほしい。	B
		八木町の外側にバイパスが計画されているので、八木札ノ辻交流館にかかる都市計画道路は必要ないのではないか。八木町の観光資源を重視し、バイパスを駅周辺のまちづくりとセットで行うべきだ。	八木町の南北道は外側にバイパスがセットされているので不要では。バイパスと駅周辺のまちづくりをセットで行う。	A
			八木町は観光資源と併せて整備計画を策定すべき。バイパスと駅周辺のまちづくりをセットで行う。	A
			札ノ辻の都市計画道路は廃止し、周辺全体でバイパス道の検討を。交通量調査をすればわかるのではないかと。	A

注釈

※1 PR	public relations の略。①会社や官公庁などが事業内容や施策などを一般的に広く知らせること。②売り込み、宣伝。
※2 景観デザインコード	景観構成要素の「あり方」およびその「組み合わせ」についての視覚的な約束事である。この約束事は景観構成要素の「配置」・「色」・「形」・「素材」・「生物種」の共通性として示される。
※3 NPO	non profit organization の略。政府・自治体や私企業とは独立した存在として、市民・民間の支援のもとで、社会的な公益活動を行う組織・団体。特定非営利活動法人。非営利組織。非営利団体。市民活動法人。市民事業体。
※4 PFI	Private Finance Initiative (プライベート・ファイナンス・イニシアチブ)。民間の資金と経営能力・技術力(ノウハウ)を活用して、公共施設等の設計・建設・維持管理・運営を行う公共事業の手法。
※5 リードタイム	所要時間。
※6 ファシリティーマネジメント	施設の資産全般(ファシリティ)を経営資源として捉え、適正管理(マネジメント)を図りながら、総合的に企画・管理・活用する経営活動のこと。
※7 michimo	2人乗りの「超小型モビリティレンタルサービス」のこと。現在、近鉄橿原神宮前駅にレンタルステーションがある。